

シェードの奥の懐古の明かり

# 「ガス燈」展

会期:2017年7月15日(土)~10月9日(月・祝)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス燈館2階「ギャラリー」

## ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2017年度第2回企画展として、2017年7月15日(土)から10月9日(月・祝)までの期間、『シェードの奥の懐古の明かり「ガス燈」』展を開催します。

明治5年(1872)に横浜で誕生した日本のガス事業は、街灯のあかりから始まりました。

その後、神戸の外国人居留地や東京の銀座通りに灯った裸火のガス燈は、文明開化の象徴の一つとして広く知られるようになりました。

やがて室内灯としても利用されたガス燈は、ガスの炎に被せて使用する発光体「マンテル」が明治30年代に登場すると、より明るい青白い光を放つようになり、各地の夜の街を照らしました。大正時代初めに全盛期を迎えるガス燈は、昭和のはじめに一度姿を消しますが、現在では懐かしさを感じさせるあかりとして、各地で復活しています。

今回は開館五十周年第2回企画展として、平成21年(2009)に寄贈を受けた「個人コレクション」のガス燈を中心に、開館時より収集してきたマンテルやシェードなどのガス燈に関する資料とともに紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

## ■展示作品一覧

### 【展示解説】

学芸員 高橋 豊

#### 1) 白色笠付アウトドアガスランプ

屋外に吊り下げて使用するガス燈で白い傘の内側は、ガスマンテルの放つ光を効率よく下向に反射します。また傘の下には十字の支えがあり、置いて使用することもできます。

#### 2) 藤原式下向一灯ガスランプ

国産のアームを持つガス燈で、埼玉県川口の建屋に設置されていました。バーナー部分は陶器で出来ており、ドイツ製ともいわれています。

#### 3) 花模様飾付下向腕ガスランプ

孤を描くアームの周りに、花飾りが施されたガス燈になります。ガス燈はアームやバーナー、ホヤなどを組み合わせて、好みのガス燈に仕上げることもできました。

#### 4) 両用ガスランプ

天井に設置されたガス燈が、調理などでも同時に使用出来るようガス栓を備えた製品で、「両用ランプ」と呼ばれています。ガスの利用方法が明かりから熱源へと変化する過渡期に登場した製品です。

#### 5) 吊下式下向大型ガスランプ

バーナー部分が緑色のホウロウ仕上げになっているガス燈です。左右の鎖を引っ張り、上部のシーソー式のガスコックを操作して、ガス燈の点消を行います。

#### 6) 舶来上向腕ガスランプ

明治16年(1883)建設の鹿鳴館で使われていた、裸火を使用する古い形態の室内ガス燈です。昭和15年(1940)に建物解体の際、東京ガス社員が譲り受け、大切に保管した物です。

#### 7) 壁掛式円筒型ガスランプ

上下に大きな開口部のある、円筒形のガス燈で、壁面に設置して使用しました。点灯時は、乳白色のホヤを上を持ち上げ、ガスマンテルに点火します。

#### 8) 卓上下向ガスランプ

明治42年(1909)の東京ガスのカタログでは、「並燭台(なみしょくだい)」と呼ばれています。普及品として紹介されており、別売りであるバーナーやホヤを組み合わせて使用しました。

#### 9) 二灯中型スタンドガスランプ

戦後の電力事情が悪い時期、夜間照明を補助するために販売されたガス燈です。モデルとともにカタログ向け写真も撮影されており、一般向けにガス燈の需要があったことが分かります。

#### 10) 壁掛式腕ガスランプ

昭和30年(1955)のカタログに掲載されている、壁掛式のガス燈です。昭和24年(1949)末に都市ガスが24時間供給を復活させると、一時的ではありますが全国的にガス燈が復活しました。



6) 舶来上向腕ガスランプ



9) 二灯中型スタンド  
ガスランプ



15) 卓上スタンドガスランプ



19) 壁掛式飾付  
下向ガスランプ



23) 壁掛式ガラス製  
飾付腕裸火ガスランプ



21) 吊下式草花飾付  
下向ガスランプ

### 11) 壁掛式二つ折ガスランプ

築100年を超える住宅に、平成20年(2008)の寄贈直前まで設置されていたガス燈です。

居間の柱に穴を開けて設置されていたため、使用されなくなっても取り外すことなく残されたと考えられます。

### 12) 吊下式二灯裸火ガスランプ

天井に設置する裸火のガス燈です。

アームは入れ子式の構造になっており、バーナーの位置を上下だけでなく、左右にも回転することができます。

井上安治「銀座商店夜景」(発行:明治15年(1882))の、作品内でも取り上げられています。

### 13) 亥三十號一出腕ランプ

明治45年(1912)の東京ガス手彩器具カタログに掲載されており、大正14年(1925)から昭和2年(1927)のカタログにも掲載されていました。

平成11年(1999)まで、昭和2年(1927)建築の建物に設置されており、設置年、販売年とも確認できるガス燈です。

### 14) 壁掛式下向八号腕ガスランプ

明治43年(1910)のカタログで、「ダイヤモンド火口」の名称で紹介されるバーナーを持つガス燈です。

東京ガスが実用新案、製造販売をしたバーナーです。

### 15) 卓上スタンドガスランプ

昭和10年(1935)のカタログに「燭臺(しょくだい)」の名称で紹介されています。半弧の腕をもったマントルを使用する、国産のガス燈です。

平成11年(1999)に品川区在住のお客様より寄贈いただきました。

### 16) 卓上笠付ガスランプ

赤い縁取りのある、白い傘の卓上ガス燈です。

ガス管は、傘を支えている二本のアームの中に配管されています。

### 17) 独逸製吊下式下向ガスランプ

白地に金線の模様が入った、吊下式のガス燈です。ドイツベルリンの「J. ハーシュホーン」社のブランドである、「EROS」の刻印が本体にあります。

### 18) 壁掛式二つ折下向ガスランプ

腕が二つ折りになり、使用しない時は壁際に折りたたんでおき、点灯時は引き延ばして使用するガス燈です。シェードは緑色のガラスにリボン模様が施されています。シェードを固定している、頭部のスリット余白部分に、「登録商標」「BLAND」の刻印が入っています。

### 19) 壁掛式飾付下向ガスランプ

半円の弧を描くアームを持つ、壁掛式のガス燈で、三本の櫛の歯状の飾りがアクセントとなった製品です。青色のガラスに模様が入ったシェードはあまり見かけません。

### 20) 吊下式下向小型ガスランプ

吊下式の小型のガス燈ですが、この製品は種火を常に灯しておき、コックの開閉操作のみでガス燈を点灯しました。コック両端の鎖には、「ON」「OFF」のすかしが入った飾りがあり、点火の際、どちらの鎖を操作すれば良いか判るようになっています。

### 21) 吊下式草花飾付下向ガスランプ

草花模様と、曲線の飾りが組み合わされた、吊下式のガス燈です。本体だけでなく、シェードにも草花模様が施されています。

### 22) 壁掛式飾付下向ガスランプ

大ぶりのデザインの壁掛ガス燈です。縦長の台座が支える2箇所を軸に、製品本体が左右に回転します。

### 23) 壁掛式ガラス製飾付腕裸火ガスランプ

マントルを使用しない裸火のガス燈です。乳白色のガラスのシェードには草花が描かれ、アームは茎をイメージさせる、黄緑色のガラスの飾りの中にガス管が見える構造になっています。



24) 卓上下向ガスランプ



25) 吊下式笠付下向ガスランプ



35) 壁掛式ガラス製腕下向ガスランプ



36) 藤原式一出腕ガスランプ

### 24) 卓上下向ガスランプ

本来は吊下式の上向ガス燈を、燭台として使用したと思われる台へ逆さに固定し、卓上下向ガス燈へと改造した製品です。かつての丸い取っ手の部分が、卓上ランプのデザインに生かされています。

### 25) 吊下式笠付下向ガスランプ

木座を用いて天井に固定する吊下式のガス燈です。バーナーの上には、表が青色内側が乳白色の笠があり、光を反射する役割と合わせ、ガスの燃焼熱が直接天井に伝わらないようにしています。

刻印から、大阪の三平社の製品であることが判ります。

### 26) 壁掛式草花飾付下向ガスランプ

草花模様の飾りのあるガス燈です。台座やアームの上部にあるコックにも、細かい飾りが施されています。

### 27) 壁掛式笠付小型ガスランプ

非常に小型の壁掛式のガス燈です。熱よけの笠も小ぶりですが、シェードには鮮やかな模様が描かれており、ガス燈全体のアクセントとなっています。

### 28) 壁掛式三つ折下向ガスランプ

アームが三つ折になる構造をしています。球形のシェードには、細かい模様が施されており、頭部に「大阪瓦斯」の社章が刻印されています。

### 29) 吊下式笠付伸縮裸火ガスランプ

裸火の炎で照らす古い形式のガス燈です。光を下向に反射させる他、炎の揺らぎによる光の変化を軽減させるため、乳白色のガラスのシェードを被せて使用されました。

### 30) 吊下式飾付ガスランプ

アーム部分に飾りのついた、吊下式のガス燈です。飾りの下にあるシーソー式のガスコックを操作して、ガス燈の点消を行います。

### 31) 壁掛式飾付下向二灯ガスランプ

壁掛の二灯式のガス燈です。

二灯のガス燈の根元には大きな飾りがあり、その中央にはターコイズ(トルコ石)がはめ込まれたような、青色の飾りが付いています。

### 32) 壁掛式飾付下向ガスランプ

黄色いフレア状のシェードのガス燈です。

曲線を描くアーム全体に細かい模様が施され、本体を固定する木座も附属しています。

### 33) 吊下式下向ガスランプ

卵形の緑色のシェードに細かい模様の施された、吊下式のガス燈です。

シェードを固定している、頭部のスリット余白部分に、「京都瓦斯」の社章が入っています。

### 34) 壁掛式飾付下向ガスランプ

草花模様と、ねじり模様の施された曲線を描くアームを持つガス燈です。

鍍金されたアームと、ホヤを支えるバーナーの仕様が明らかに異なることから、上向ガス燈を、マンテルを使用する製品に改造していることが判ります。

### 35) 壁掛式ガラス製腕下向ガスランプ

他のガス燈とは異なり、アームの部分がガラス製の製品です。

模様の施された透明な中空のガラス内をガスが流れ、ガス燈を灯す構造は、無色であるガスを生かしたデザインを取り入れています。

### 36) 藤原式一出腕ガスランプ

大正14年(1925)から昭和4年(1929)の、東京ガスのカタログに掲載されているガス燈です。

和風のデザインの国産品で、入手した時の情報では、京都御所に設置されていたものといわれています。



37) 壁掛式下向ガスランプ



ガスマントル

### 37) 壁掛式下向ガスランプ

壁掛式のガス燈です。

白色のバーナーには草花模様が施され、正面には「京都瓦斯」の社章が記されています。

かつて京都瓦斯の供給地域で使用されていた製品です。

### 38) 壁掛式草花飾付下向ガスランプ

草花模様の飾りの付いた、壁掛式のガス燈です。

現在、下向になっている草花の飾りの向きや、コックのツマミの位置などから、元は裸火のガス燈であったことが推測できます。

### 39) 吊下式下向ガスランプ

吊下式のガス燈です。乳白色の変化に富んだシェードの中の炎は、「ON」「OFF」の飾りがついた鎖を操作して点消を行います。

### 40) 壁掛式飾付下向ガスランプ

曲線で造形された、アームと飾りが施されたガス燈です。

### 41) 吊下式下向ガスランプ

細かい模様が施された、紫色のホヤを持つ、吊下式のガス燈です。

シェードを固定している、バーナーのスリット余白部分に、「登録商標」「BLAND」の刻印が入っています。

### 42) 壁掛式飾付下向ガスランプ

アーム全体が曲線で構成されたデザインのガス燈です。台座附近のアーム根元の横にコックがあります。

### 43) 吊下式伸縮廻転自在ガスランプ

広間などの天井に設置された、吊下式のガス燈です。バーナー部分と反対側の錘とのバランスを利用することで、高いところにかかげるガス燈を下に引っ張って、アームを稼働させて灯しました。

### 44) 卓上六角台ガスランプ

六角形の台座を持つ、小型の卓上ガス燈です。

ピンク色のシェードには、手をつないだ二人の子供の姿が表されています。

### 45) 吊下式笠付裸火ガスランプ

吊下式の屋内ガス燈です。

上部のガス管接続部の下に吊り下げるリングがあり、両側から延びるアームが、「京都瓦斯」の社章が記されたシェードを支えています。

### 46) ガス街灯頭

北区飛鳥山にあった、渋沢栄一郎(東京ガス初代社長)のガス街灯頭部です。

戦後東京ガスが譲り受けますが、長年の風雪のため劣化は激しい状態でしたが、現在は保存処理が行われて、大切に保管されています。

## ガスマントル

## シェード

## ガス燈関係カタログ

### おもな参考文献

栗原鑑司『瓦斯及其副産物工業 中巻』 丸善	1916年
照明文化研究会編『あかりのフォークロア』 柴田書店	1976年
宮原諄二『「白い光」のイノベーション』 朝日出版社	2005年
関東信越瓦斯労資懇談会編『続 ガス技術読本』	1953年
日本瓦斯協会編『都市ガス工業 器具編』	1961年
中根君郎『がす燈資料抄』	1977年
東京ガス(株)『がす資料館年報 No.5』	1977年

### GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。

次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》